

令和4年度第1回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会（協議体）会議録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和4年度第1回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会（協議体）
開催日時	令和5年2月9日（木） 午後2時～午後3時10分まで
開催場所	高松市役所本庁13階 大会議室
議題	(1) 地域共生社会の実現に向けた住民主体の支え合いサービスについて (2) 総合事業について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	塩見職務代理、石川委員、上田委員、植中委員、喜岡委員、喜田委員、近藤委員、鈴木委員、田中(克)委員、野上委員、萩池委員、古川委員、前田委員、松村委員、赤松委員、大原委員、片山委員、工藤委員、佐々木委員、高橋委員、多田羅委員、野町委員、松本委員
傍聴者	0人、報道0社
担当課 及 び 連絡先	長寿福祉課 087-839-2346 介護保険課 087-839-2326 地域包括支援センター 087-839-2811

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。
次のとおり、会議を開催した。

1 開会

健康福祉局長挨拶

会議を公開とすることを確認

2 議題

(1) 地域共生社会の実現に向けた住民主体の支え合いサービスについて（資料1）

事務局から説明

(2) 総合事業について（資料2）

事務局から説明

(3) その他

意見及び質疑応答

A委員

〈議題(1)について〉

生活支援コーディネーターの役割は非常に重要だと思っているが、現在何名いるのか。

事務局

〈議題(1)について〉

生活支援コーディネーターは現在15名で、それぞれが担当地区をもっており、本市から高松市社会福祉協議会へ委託し、その職員が担っている。また、地域福祉ネットワーク会議が立ち上がっている地区は43地区となっている。

B委員

〈議題(1)について〉

地域共生社会の実現に向けた取組PR動画で、最優秀賞をとった高松市の3分間の動画をホームページに上げているとのことで、著作権等の問題もあると思うが、今後、SNS等へ上げる予定はないのか。

事務局

〈議題(1)について〉

PR動画については、SNS等も活用しながら広く周知していきたい。

C委員

〈議題(2)について〉

資料2のP4の総合事業通所型サービスBについて、住民の方が高齢者居場所づくり事業からサービスBへ移行する場合のメリットを教えてください。

事務局

〈議題(2)について〉

高齢者居場所づくり事業については、担い手の後継者不足が課題となっており、サービスBに移行していただくということで、サービスBでは担い手になる方を地域で募集し、担い手の方も一緒に介護予防をしていただき、介護予防がますます拡大するということにメリットがあると考えている。

C委員

〈議題(2)について〉

サービスBへの移行のメリットなど、住民にとって分かりやすく示すことが大切だと思う。後継者不足はどこの地域でも同じだと思うが、それをどのように解決していくのかということも含め、一つ一つ課題を丁寧に検証し、次につながるよう住民とともに考えていくことが重要だと思う。

C委員

〈議題(2)について〉

資料1のP5のはつらつくらぶについて、以前実施していた「元気いきいき教室」から移行したものだと思うが、元気いきいき教室の時は、市が介護

予防においてかなりの成果が出ていると発表していたにもかかわらず、突然事業が終わってしまった印象がある。元気いきいき教室では、高齢者居場所づくり事業に参加していない方や、過疎地の方などもかなり拾えていたと思う。また、元気いきいき教室は継続して参加することができたので、無料で運動教室に通い続けることができたが、はつらつくらぶの参加は一回限りなので、その後、同様の活動を続けるためには有料の運動教室に通う必要がある。

これからの調査になると思うが、はつらつくらぶでは、以前の元気いきいき教室と比べてどのくらいの人が運動を続けているのか検証し、どこかの機会で発表していただきたい。

事務局

〈議題(2)について〉

はつらつくらぶでの運動継続率については、資料2のP6において、令和4年2月申請分の元気応援金支給者が70人で受講者全体の約20%、令和4年6月申請分の元気応援金支給者が45人で全体の約21.6%となっており、少なくとも5人に1人は自分で運動を続けている。この結果をもって効果が出ているとするのは難しいかもしれないが、長寿福祉課としては、今後、高齢者が増えていく中で、自主的に運動習慣を身に付け、介護予防に自ら取り組む高齢者の増加を目指している。そのため、これからも検証などをしながらしっかりと取り組んでいきたい。

はつらつくらぶについては、高齢者に運動習慣をつけてもらうため、第8期高松市高齢者保健福祉計画における新たな事業として作った。参加勧奨のため、特定健康診査、後期高齢者医療健康診査を受けた方の中で、運動習慣のない方をリストアップし、個別で優先的にはつらつくらぶへの案内をしている。これは元気いきいき教室の頃から行っているが、令和2年度の元気いきいき教室と3年度のはつらつくらぶを比べると、はつらつくらぶに参加する方の割合が非常に増えている。メニューに興味を持った方が多かったのではないかと分析しており、一つの効果として表れていると思う。応援金支給者が5人に1人であったが、コロナ禍ということもあり、集団の教室に行きづらかったということもあるかもしれない。この事業については、第8期計画の3年間で取り組んで評価していくので、元気いきいき教室との比較なども行っていきたい。

A委員

〈議題(2)について〉

はつらつくらぶはいつから実施しているのか。以前、元気いきいき教室を受講したことがあり、その際は体操だけではなく、10分ほどフレイル問題について説明があった。はつらつくらぶでも、フレイルについて事前に説明する時間を設けた方が良いと思う。

事務局

〈議題(2)について〉

令和2年度まで元気いきいき教室を実施し、令和3年度からはつらつくら

ぶへ移行した。フレイル予防についても非常に重要だと思っている。教室の名称が少し分かりづらいところもあると思うが、はつらつくらぶとは別の事業として、フレイル予防講座を継続して実施しており、さらに、瓦町健康ステーションでは、介護予防拠点として色々な講座を連続して行っている。本日紹介したのは、元気いきいき教室から移行したはつらつくらぶというものである。

3 閉会